

南島原市文化財調査報告書 第19集

山之内遺跡

—原尾地区県営畑地帯総合整備事業（担い手育成型）に伴う発掘調査—

2020

長崎県南島原市教育委員会

南島原市文化財調査報告書 第19集

山之内遺跡

—原尾地区県営畑地帯総合整備事業（担い手育成型）に伴う発掘調査—

2020

長崎県南島原市教育委員会

発刊にあたって

本書は、南島原市有家町原尾地区の県営畑地帯総合整備事業（担い手育成型）に伴い、発掘調査を実施した山之内遺跡の調査報告書です。

基幹産業である農業の振興のため、基盤整備は必要な事業であり、事業推進と埋蔵文化財の適切な保護のための調整は重要なものです。

この地に古い時代から人々の生活の跡が時代を超えて残されていることを伝え、守っていくことは今に生きる我々の責務です。現地に残して保護する遺跡、形を変えて記録として残す遺跡があります。本書が郷土の歴史教育、研究のために広く活用されることを願います。

最後になりましたが、原尾地区埋蔵文化財発掘調査事業について格別のご理解とご協力賜りました関係各位に厚くお礼申し上げます。

令和2年3月31日

南島原市教育委員会
教育長 永田 良二

例 言

- 1 本書は、山之内遺跡（長崎県南島原市有家町原尾名字山之内所在）の発掘調査報告書である。
- 2 調査は、長崎県が事業主体である原尾地区県営畑地帯総合整備事業（担い手育成型）に伴って実施した。
- 3 現地調査は、有家町教育委員会（現南島原市教育委員会）が主体となって実施した。また、本書作成に係わる整理調査は、長崎県南島原市教育委員会が主体となって実施した。整理調査の体制・担当は、以下のとおりである。

整理調査

調査主体

南島原市教育委員会	教 育 長	永田 良二
	教育次長	深松 良蔵
	理 事	宮崎 誠
	文化財課長	松本 慎二
	文化財課文化財班長	鬼塚 俊範

調査担当

南島原市教育委員会	文化財課文化財班	副参事（学芸員）	荒木 伸也
-----------	----------	----------	-------

- 4 現地調査における写真撮影は、荒木が行った。遺構配置図及び個別遺構実測図の作成は、(株)埋蔵文化財サポートシステム長崎支店に委託し、一部を荒木が行った。航空写真の撮影は、(有)スカイサーバイ九州に委託した。
- 5 遺物の洗浄・注記などの基礎整理は、佐藤弘美、照平八千代が行った。遺物の実測、拓本、製図、写真撮影は、荒木が行った。
- 6 本書に関する遺物、図面、写真等は、南島原市深江埋蔵文化財整理室に保管している。
- 7 本書の執筆・編集は、荒木による。

本文目次

第Ⅰ章 位置と環境	1
第1節 地理的環境	1
第2節 歴史的環境	1
第Ⅱ章 調査の概要	4
第1節 調査に至る経緯	4
第2節 調査の経過	4
第3節 調査組織等	4
第4節 調査区の設定と調査の方法	4
第Ⅲ章 調査成果	5
第1節 土層と遺構	5
第2節 出土遺物	9

挿図目次

第1図	有家町内遺跡地図 (S = 1/50,000)	3
第2図	調査区位置図 (S = 1/6,000)	5
第3図	土層実測図 (S = 1/150)	6
第4図	遺構配置図 (S = 1/200)	7
第5図	焼土遺構平面実測図 (S = 1/80)	8
第6図	焼土遺構断面実測図 (S = 1/40)	8
第7図	出土遺物実測図 (1~9 : S = 1/3, 10 : S = 1/4, 11~13 : S = 1/3, 14~16 : S = 1/2, 17・18 : S = 2/3)	10

表目次

第1表	土器・陶磁器観察表	9
第2表	石器観察表	9

図版目次

図版1	遺跡周辺航空写真①	13
図版2	遺跡周辺航空写真②	14
図版3	調査区航空写真	15
図版4	焼土遺構検出状況	16
図版5	焼土遺構炭化物検出状況, 作業状況	17
図版6	焼土遺構断面 (A - A'), (B - B')	18
図版7	遺物出土状況	19
図版8	出土遺物	20

第 I 章 位置と環境

第 1 節 地理的環境

島原半島の南東部に位置する南島原市は、平成18年3月31日に南高来郡深江町、布津町、有家町、西有家町、北有馬町、南有馬町、口之津町、加津佐町の8町が合併し誕生した。北は島原市、西は雲仙市と接し、南東は有明海に面している。面積は170.11km²、令和2年2月末の人口は45,171人である。

半島の中央部には、普賢岳(1,359m)、国見岳(1,347m)、妙見岳(1,333m)などの雲仙山系が連なり、平成の普賢岳の噴火活動で山頂部に溶岩ドームが形成され、平成新山(1,483m)として長崎県の最高峰となっている。北部の深江町から西有家町までは扇状地、緩やかな丘陵が多いが、北有馬町から南部の加津佐町までは山間部が多く、海岸線まで急峻な地形が迫っているところが多い。

山之内遺跡は南島原市有家町原尾名字山之内に位置する。雲仙山系を中心に有明海に向かって延びる丘陵や台地と、これらを浸食するいくつもの河川がある。この中で堂山川と高野川に挟まれた丘陵の標高約90~100mの緩傾斜地に広がる遺跡である。

第 2 節 歴史的環境

南島原市内では現在190の遺跡が存在し、有家町内には56の遺跡(うち9遺跡はキリシタン墓碑群などの石造物)がある。縄文時代の遺跡が多く見られるが、実際に調査された遺跡が少ないため、詳細な内容等は分かっていない。以下、有家町内の遺跡について時代ごとに述べていく。

旧石器時代を主体とする遺跡の発掘調査事例は市内ではなく、現地踏査での表採や他の時代の調査で遺物包含層に混在して遺物が確認された事例がある。町内では長崎県教育庁文化課(以下、県文化課)が実施した農免農道建設に伴う下木場遺跡(後に通野遺跡と名称変更)発掘調査で、三稜尖頭器が出土しており、土地利用が旧石器時代には始まっていたと想定されている。

縄文時代では晩期を主体とする遺跡が多い。主な遺跡としては、西鬼塚支石墓・石棺群、堂崎遺跡、蒲河遺跡があげられ、いずれも県文化課が調査を実施している。西鬼塚支石墓・石棺群の範囲確認調査では、支石墓と箱式石棺が確認され、一部はマリンパークありえ内に移設復元されている。港湾関係事業で調査を実施した堂崎遺跡、蒲河遺跡では、晩期土器のほか、多量の礫器、石錘が出土している。有明海沿いの海中干潟に見られる潮間帯遺跡で、尖頭状礫器、双角状礫器が多く出土しており、貝類の採取、加工を主とした活動の場と考えられている。堂崎遺跡調査時に遺跡西側の海岸においても同様な礫器を多数確認し、石田遺跡としている。前述の通野遺跡では早期の押型文土器、晩期土器が出土している。平成17年に農業基盤整備事業に伴い有家町教育委員会(以下、町教委)が調査した大苑遺跡では、縄文時代晩期の粗製深鉢と台石を伴う不定形土坑を確認している。近年、市道改良工事に伴い南島原市教育委員会文化財課が調査した東大窪遺跡では、縄文時代早期、後・晩期の土器や、台石、叩石、磨製石斧、玉などが出土し、後・晩期と考えられる廃棄土坑を確認している。

弥生時代の遺跡として堤遺跡、貝森遺跡があげられる。『有家町郷土誌』によると有家川下流域にある堤遺跡で中・後期の合口甕棺や貝製の装飾品が出土し、その他に海中干潟の貝森遺跡では後期土器が出土したほか、縄文時代の前期、中期、晩期土器や双角状礫器も出土したとある。いずれにしても昭和30年代の工事中に出土したとの記録や表採資料によるものが多く、調査が実施されていない

め詳細は不明である。平成14年に海岸整備事業に伴い県文化課が貝森遺跡の範囲確認調査を実施しており、摩耗した土器が出土しているが、貝森川の河口にあり流れ込みと考えられている。同年に基盤整備事業に伴い町教委が調査した大苑遺跡では、弥生時代中期の小児甕棺墓1基を確認している。

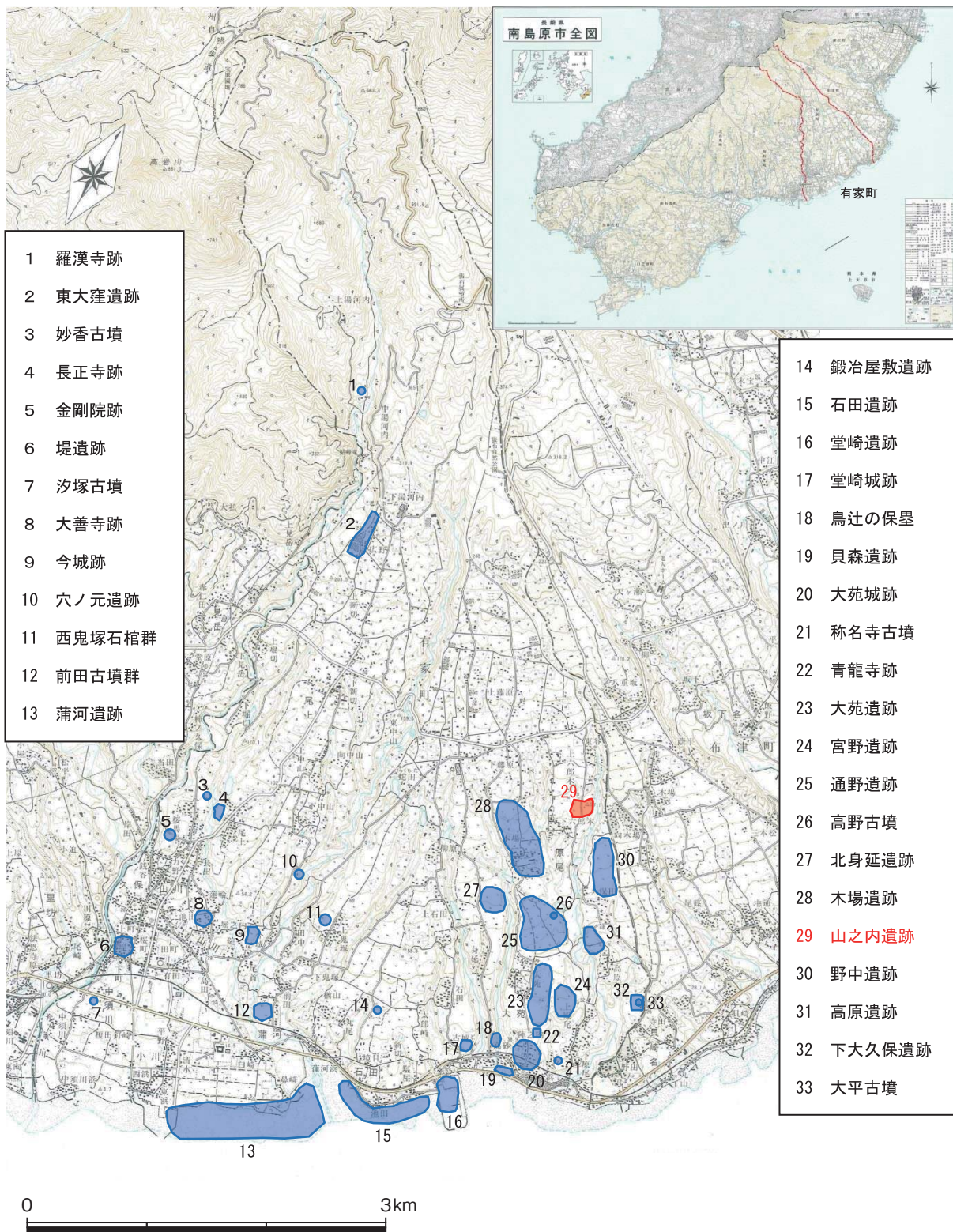
古墳時代の遺跡として高野古墳、大平古墳、妙香古墳、称名寺古墳、前田古墳群、汐塚古墳の6つの古墳が遺跡地図に掲載されている。『有家町内における文化財の分布調査』によると、高野古墳は昭和30年代に九州大学が調査し、土師器、須恵器、鉄鏃、ガラス玉が出土したとある。昭和50年代には有家町史跡調査委員会が大平古墳、妙香古墳の調査を行い、大平古墳では須恵器片を表採している。妙香古墳では遺物を確認していない。前述の3つの古墳は、調査着手時には既に半壊しており、盗掘されていたとのことである。称名寺古墳では金環が出土したとされるが、その他の古墳について詳細は不明である。

明確な古代の遺跡は確認されていない。中世では古記録に残る寺院跡として、羅漢寺跡、青龍寺跡、長正寺跡、金剛院跡、大善寺跡がある。前述した平成14年の大苑遺跡の調査では、土師器の小皿3枚を伴う土坑墓1基を確認している。平成16年に、町教委が羅漢と呼ばれる石像が祀られている周辺を中心に羅漢寺跡の内容確認調査を実施しているが、遺構、遺物は確認できなかった。城館跡として堂崎城跡、大苑城跡、今城跡、鳥辻の保塁があり、昭和50年代に町教委が堂崎城跡の発掘調査を実施し輸入陶磁器類が出土したとされるが、遺物の所在等は不明である。

近世ではキリシタン墓碑が42基確認されている。明治35年に郷土史家の森豊造氏が発見した花十字紋の中須川キリシタン墓碑は、長崎県下キリシタン墓碑発見の端緒となり、昭和2年に県指定の史跡となった。

【参考文献】

- 吉永重人・篠原徳之編 1980 『有家町内における文化財の分布調査』有家町の文化財報告第1集 有家町教育委員会
- 有家町郷土誌編纂委員会編 1981 『有家町郷土誌』 有家町
- 長崎県教育委員会編 1994 『長崎県遺跡地図』鳥原市・南高来郡地区 長崎県文化財調査報告書第111集 長崎県教育委員会
- 村川逸朗 1997 『西鬼塚支石墓・石棺群』有家町埋蔵文化財調査報告書第3集 有家町教育委員会
- 古門雅高編 2004 『下木場遺跡』長崎県文化財調査報告書第179集 長崎県教育委員会
- 本多和典・酒井希望編 2018 『東大窪遺跡』南島原市文化財調査報告書第11集 南島原市教育委員会
- 本多和典編 2018 『大苑遺跡』南島原市文化財調査報告書第12集 南島原市教育委員会



第Ⅱ章 調査の概要

第1節 調査に至る経緯

有家町内では平成6年頃から複数の基盤整備事業計画があり、これらに伴い県文化課は町内の現地踏査を行い、事業計画との調整を図っていた。その中で、平成12年に原尾地区県営畑地帯総合整備事業（担い手育成型）が認可され、原尾地区土地改良区が設立された。事業計画は約110haである。町教委は長崎県島原振興局（以下、振興局）の依頼を受け、原尾地区試掘調査、範囲確認調査を実施している。これらの調査に山之内遺跡範囲確認調査が含まれており、縄文時代早期の押型文土器や焼土塊、ピットを確認している。

試掘調査、範囲確認調査結果をもとに遺跡の取扱いについて開発部局と保護部局と協議、調整を重ね、計画区域内に所在する山之内遺跡、野中遺跡、高原遺跡、木場遺跡の4遺跡の本調査が必要と判断した。基本方針として整備事業と営農の都合上、工事着工前年度までに現地調査を完了することとした。

第2節 調査の経過

平成15年度に振興局から町教委へ、山之内遺跡内の道路及び排水路計画区域の約900㎡の調査依頼があった。調査面積を縮小するため、本調査に先行して詳細な範囲確認調査を行い、面積を約530㎡に縮小し本調査を実施した。

第3節 調査組織等

山之内遺跡発掘調査の調査組織等は、以下のとおりである。

平成15年度 調査体制	有家町教育委員会	教育長	松島 吉郎
		教育次長	田出 義正
		社会教育係長	野原 文博
		社会教育係	荒木 伸也（調査担当）

調査期間 平成15年8月18日～12月1日

調査面積 534㎡

第4節 調査区の設定と調査の方法

道路、排水路及び切土計画区域を調査の対象とし、小型バックホウを用いて表土剥ぎを実施した。工事範囲に応じて、東西方向に約7～16m、南北方向に約40mの調査区となる。表土剥ぎ後、人力による掘削、遺構検出を行った。遺構検出及び掘り下げ後、必要に応じて写真撮影、遺構実測を行った。実測には日本測地系の座標を用いた。ラジコンヘリによる航空写真撮影を実施し合成写真を作成した。

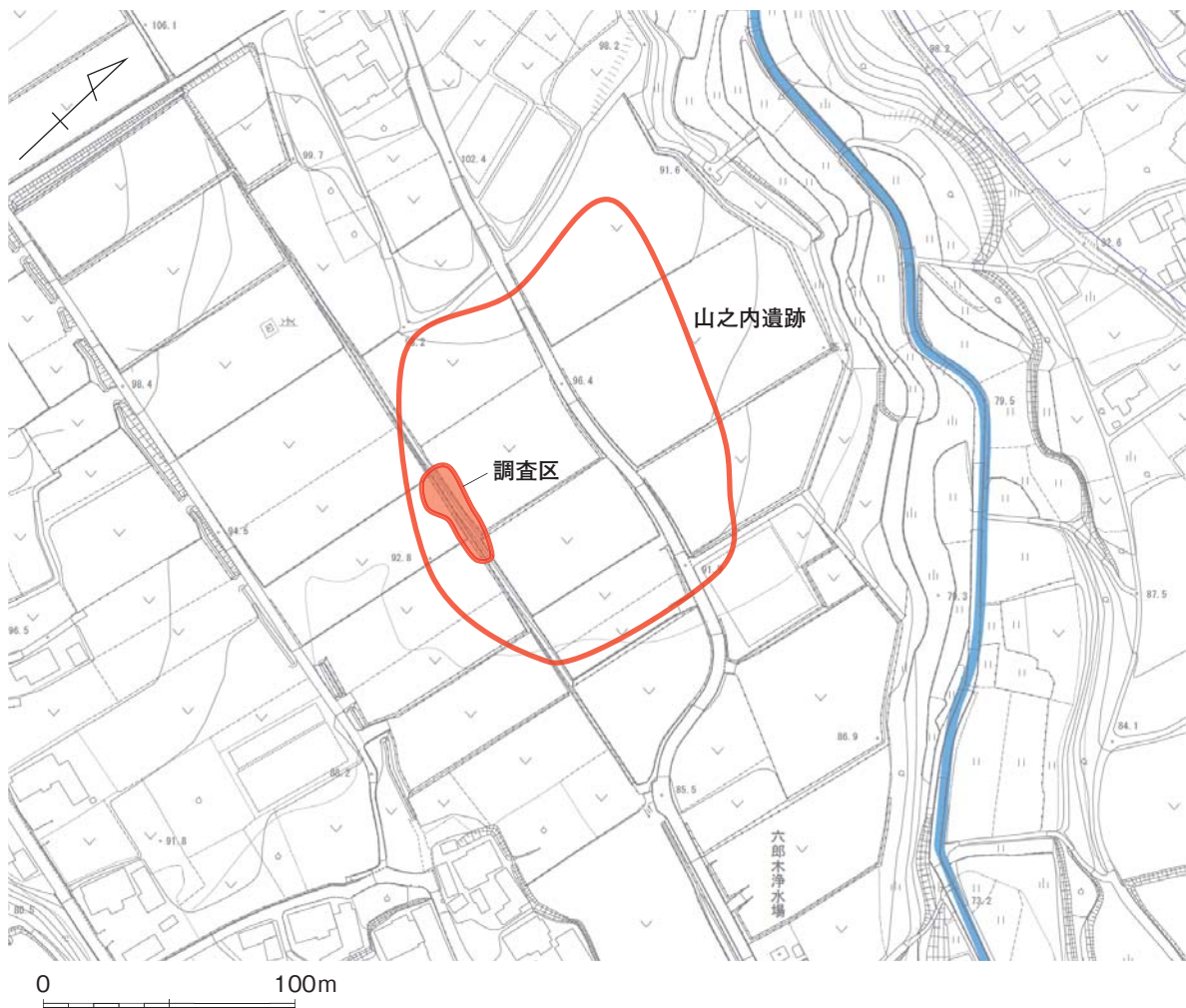
第Ⅲ章 調査成果

第1節 土層と遺構

山之内遺跡における遺物包含層（第5層）は、暗褐色を呈しており、調査区全体で500点ほどの遺物の検出がみられた。時期的には、おもに縄文時代晩期から弥生時代にかけてのものである。

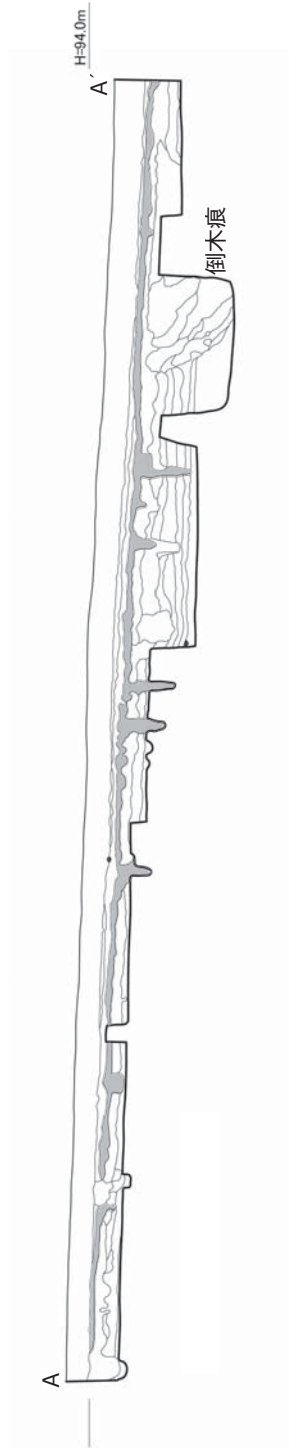
また、遺物包含層直下の明褐色土層の上面を検出面として多くの遺構を確認した。確認した遺構には、ピット、土坑などがある。

また、調査区の北部では焼土遺構を検出した。焼土遺構は、南北6.5m、東西8.0mほどの平面的な広がりが見られた。第1硬化面（下面）と第2硬化面（上面）のふたつの硬化面が認められ、また、焼土は利用段階で掻き出し作業が行われたらしく、攪乱を受けている部分とそうでない部分が観察された。また、焼土に混じって多くの炭化物が検出された。検出面が明褐色土層より上位であることから、弥生時代よりはあとの造営と判断されるが、詳細な時期については不明である。

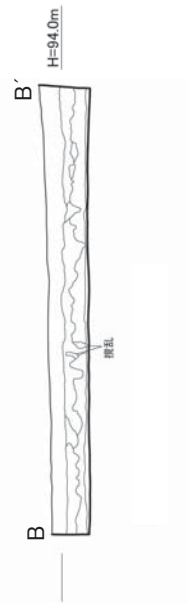


第2図 調査区位置図 (S=1/6,000)

調査区北東壁



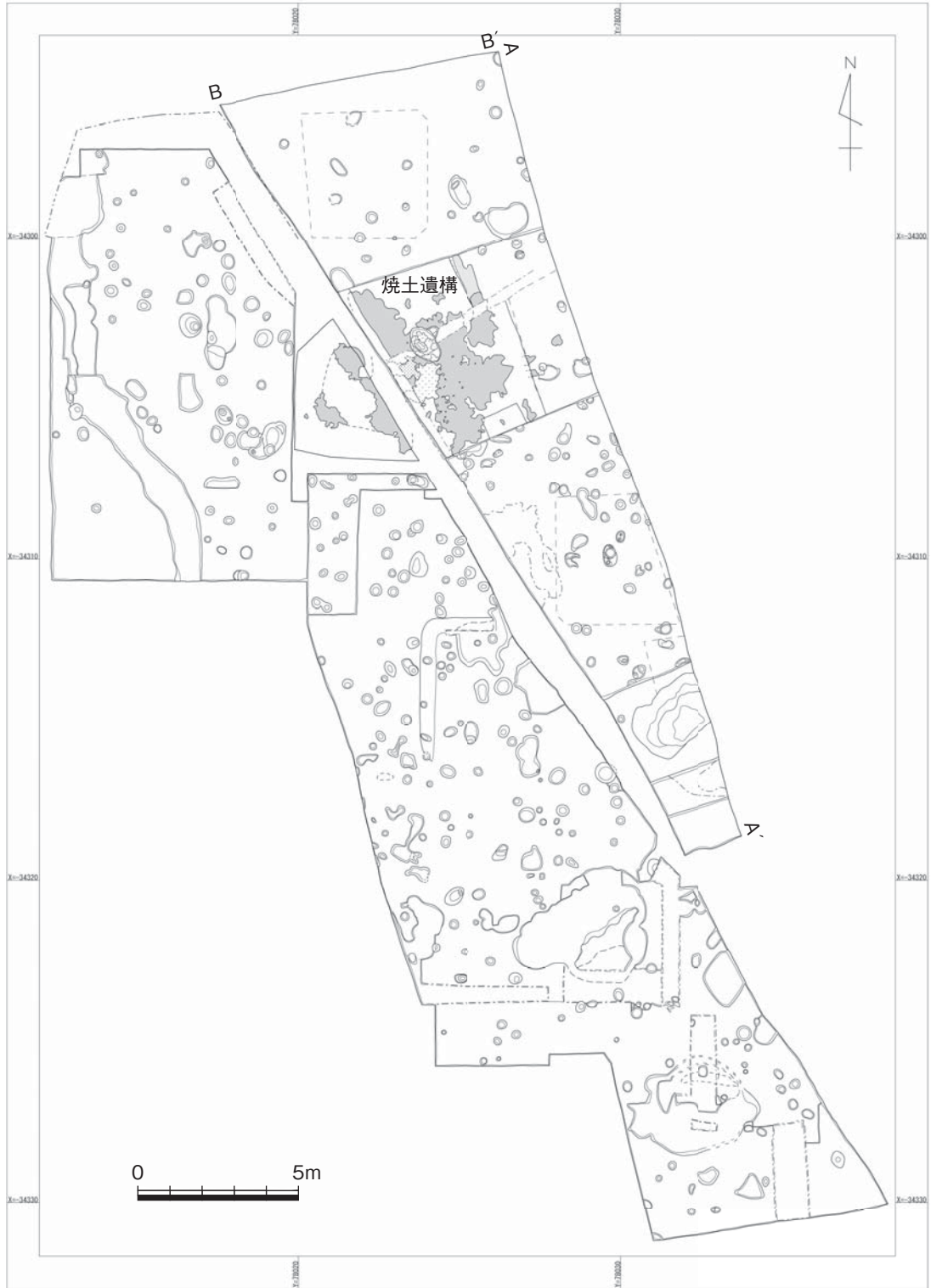
調査区北西壁



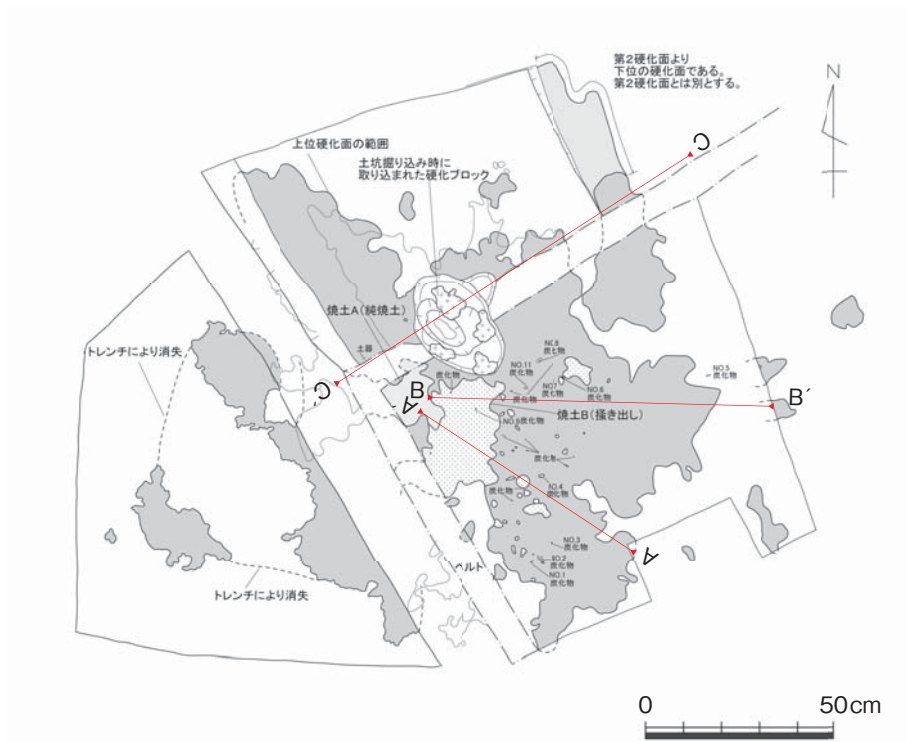
■ 暗褐色土 (遺物包含層)



第3図 土層実測図 (S=1/150)



第4図 遺構配置図 (S=1/200)



第5図 焼土遺構平面実測図 (S=1/80)



第6図 焼土遺構断面実測図 (S=1/40)

第2節 出土遺物

1は縄文時代早期の押型文土器である。厚手の器壁をなし、外面に楕円文を施文する。

2～8は縄文時代晩期の土器である。2～4は深鉢，5～8は浅鉢である。2は外面に貝殻条痕調整ののちナデ調整を行う。3は外面に間隔の広い平行沈線を施す。4は断面張り出しをもつ底部である。復元底径は10.3cmを測る。

5の口縁部は外反し、内面に段をもつ。6は、しっかりと屈曲する胴部は肩を作り、そこからのびる頸部は大きく外反して口縁部は玉縁状をなす。口縁部外面には1条の沈線を引く。復元口径16.0cm、復元胴部最大径14.8cmである。7・8は大きく扁球状に張り出す胴部に短い頸部が立ち上がり、口縁部は玉縁となる資料である。どちらも口縁部外面に1条の沈線を引く。8の胴部には焼成後の穿孔が1箇所認められる。7は復元口径23.0cmを測る。8は復元口径22.8cm、復元胴部最大径25.0cmを測る。6～8は黒色磨研土器である。

9～11は弥生土器である。9は小壺の口縁部で、断面三角形をなす。10は口縁部ですぼまる丸みをおびた大型甕である。口縁部断面は内外へ大きく張り出し、鋏先状をなす。復元口径は、外径で49.0cm、内径で35.0cmを測る。11は底部の資料である。内面に刷毛目調整を明瞭に残す。復元底径6.0cmを測る。

12・13は中世の資料である。12は青花皿の端反の口縁部で、外面には芭蕉文を描く。13は瓦質土器の播鉢である。内面には5本単位の櫛目が入る。

14は頁岩製の磨製石斧基部である。全体に研磨が施されているが、研磨以前の整形段階の剥離や敲打痕が一部に残る。15・16は安山岩製の打製石斧である。いずれも片面に自然面を残し、基部の方を欠損する。15は両側縁と刃部に整形剥離を施すが、刃部は使用による摩耗が著しい。16は両側縁に整形剥離を施すが、刃部については素材面をそのまま利用している。

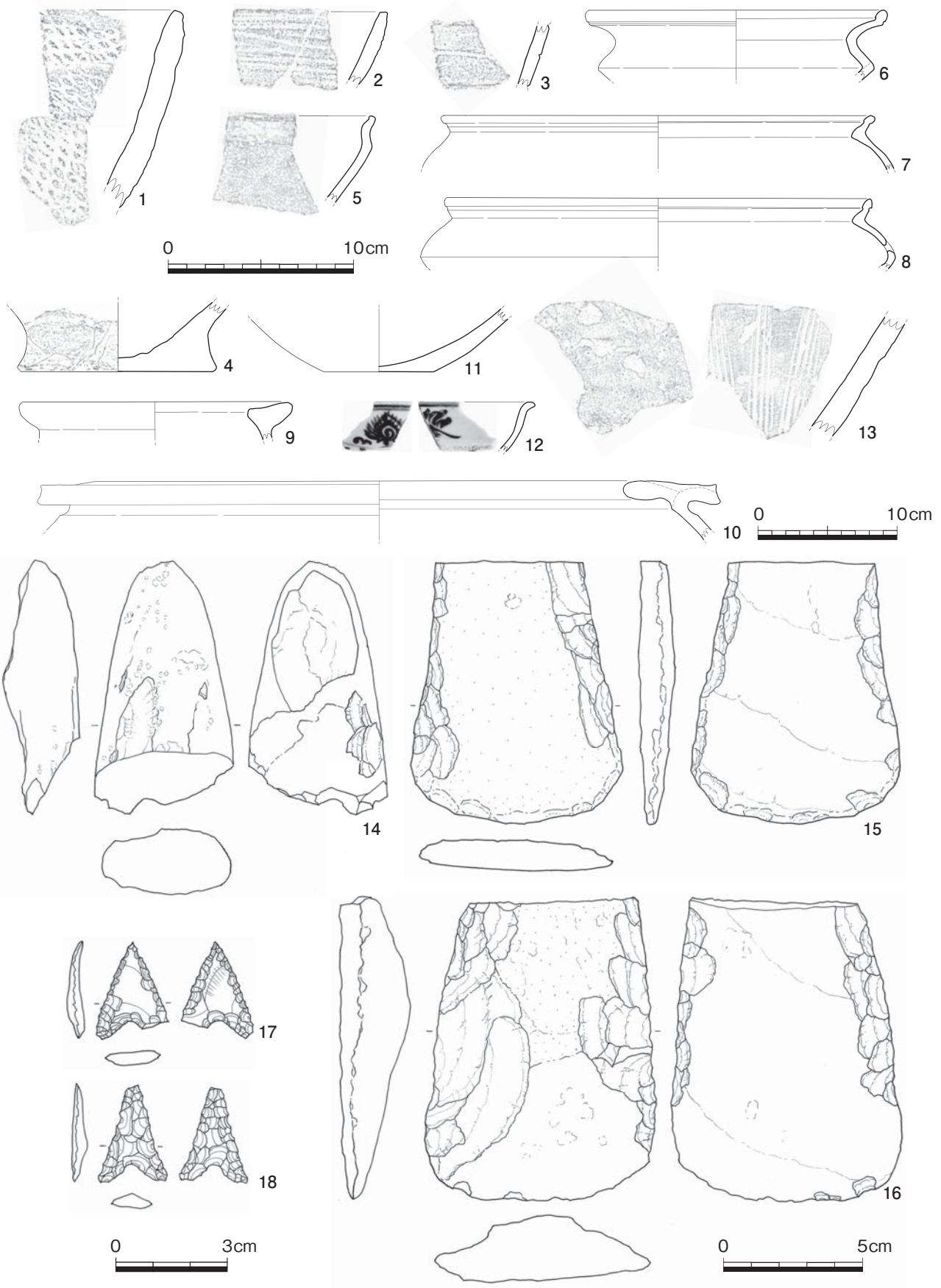
17・18は石鏃である。17は漆黒色黒曜石を素材とした剥片鏃で、縁辺に調整剥離を施す。18は暗灰色黒曜石を素材とする。

第1表 土器・陶磁器観察表

図	番号	器種	層位	文様・調整		色調		胎土	備考
				外面	内面	外面	内面		
7	1	深鉢	3層	楕円押型文	ナデ	にぶい黄橙色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英	
	2	深鉢	5層	貝殻条痕・ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	橙色	長石・石英	
	3	深鉢	5層	ナデ，平行沈線	ナデ	にぶい褐色	にぶい褐色	角閃石・長石・石英	
	4	深鉢	3層	ナデ	ナデ	明褐色	明黄褐色	角閃石・長石・石英	
	5	浅鉢	3層	研磨	研磨	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英	
	6	浅鉢	5層	研磨	研磨	灰黄褐色	灰黄褐色	角閃石・長石・石英	黒色磨研
	7	浅鉢	5層	研磨	研磨	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	長石・石英	黒色磨研
	8	浅鉢	5層	研磨	研磨	灰黄褐色	灰黄褐色	角閃石・長石・石英	黒色磨研，焼成後穿孔
	9	壺	5層	ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英	
	10	甕	—	ナデ	ナデ	明赤褐色	橙色	長石・石英	
	11	壺カ	3層	ナデ	刷毛目	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英	
	12	皿	3層	芭蕉文・圏線	草花文・圏線	—	—	—	
	13	播鉢	3層	ナデ	櫛目	にぶい黄褐色	灰灰色	—	

第2表 石器観察表

図	番号	器種	石材	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量(g)	備考
7	14	磨製石斧	頁岩	3層	9.1	4.9	2.7	128.4	刃部欠損
	15	打製石斧	安山岩	2層	9.5	7.6	1.3	117.8	基部欠損，刃部摩耗著しい
	16	打製石斧	安山岩	3層	11.9	8.3	2.5	245.2	基部欠損
	17	石鏃	黒曜石 (漆黒色)	3層	2.6	1.9	0.5	1.2	
	18	石鏃	黒曜石 (暗灰色)	5層	2.6	1.8	0.4	0.8	



第7図 出土遺物実測図

(1~9 : S=1/3, 10 : S=1/4, 11~13 : S=1/3, 14~16 : S=1/2, 17・18 : S=2/3)

圖 版



遺跡周辺航空写真①



遺跡周辺航空写真②



調査区航空写真



烧土遺構検出状況



焼土遺構炭化物検出状況



作業状況



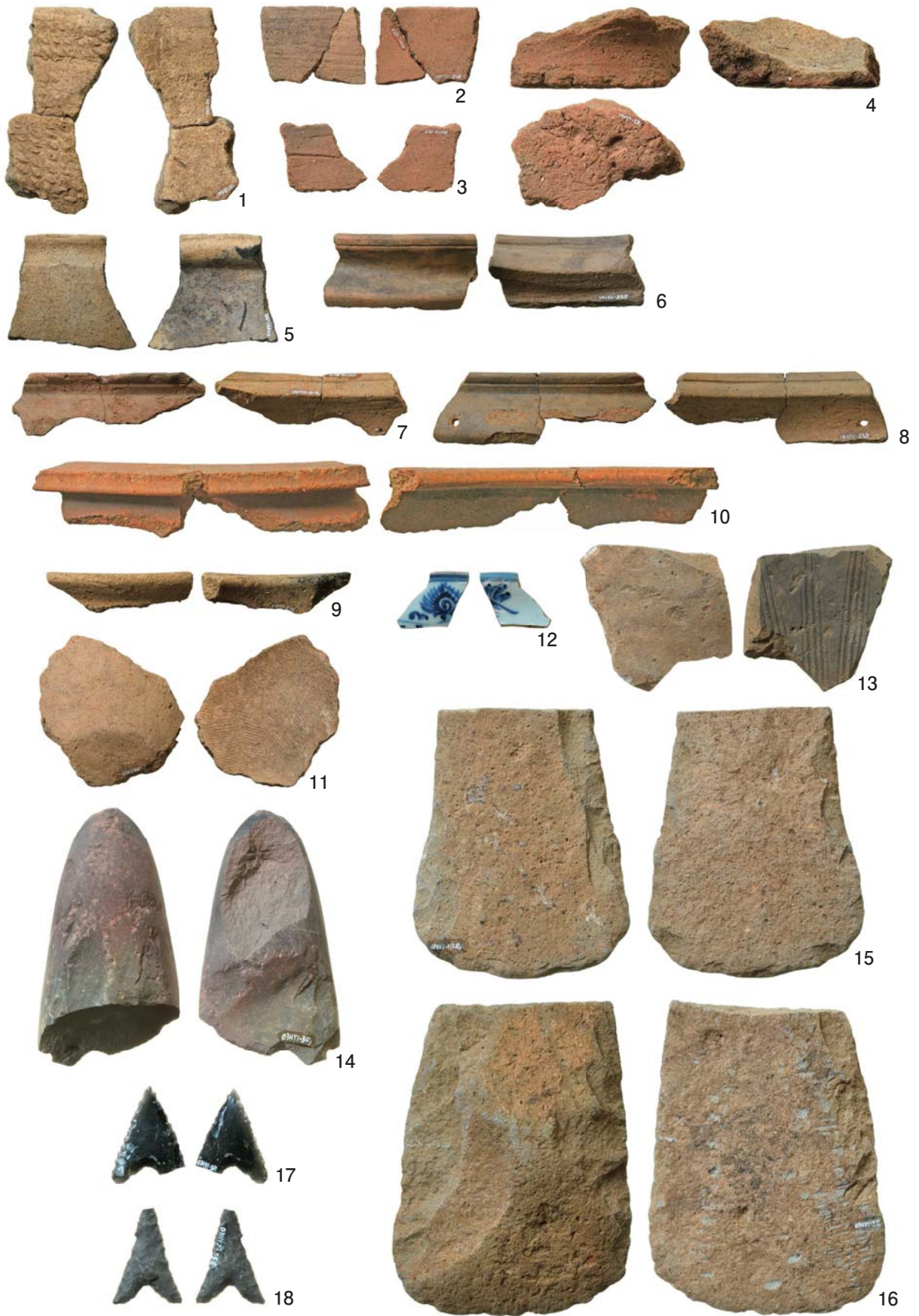
烧土遺構断面 (A-A')



烧土遺構断面 (B-B')



遺物出土狀況



出土遺物

報告書抄録

ふりがな	やまのうちいせき							
書名	山之内遺跡							
副書名	原尾地区県営畑地帯総合整備事業（担い手育成型）に伴う発掘調査							
巻次								
シリーズ名	南島原市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第19集							
編著者名	荒木 伸也							
編集機関	南島原市教育委員会							
所在地	〒859-2412 長崎県南島原市南有馬町乙1023番地 TEL0957-73-6705							
発行年月日	西暦2020年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 〇'〃	東経 〇'〃	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
やまのうちいせき 山之内遺跡	みなみしまばらし 南島原市 ありえちよう 有家町	42214	108	32° 41' 28"	130° 19' 47"	20030818 ～ 20031201	534㎡	農業基盤 整備事業
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
山之内遺跡	遺物包含地	縄文時代 弥生時代 中世		ピット 焼土		土器 石器 陶磁器		

南島原市文化財調査報告書 第19集

山之内遺跡

2020. 3. 31

発行 長崎県南島原市教育委員会
〒859-2412 長崎県南島原市南有馬町乙1023番地
印刷 株式会社 昭和堂

